

Governor's MONTHLY LETTER

ガバナー月信

6

～ 親睦活動月間 ～

ガバナーメッセージ

非連続の連続

国際ロータリー第2750地区 2010-11年度 ガバナー 辰野 克彦



6月には、RI会長、ガバナー、ガバナー補佐、クラブ会長あるいは委員長とリーダーが任期の最終月を迎えます。ロータリーでは、皆忙しい中役目を務めるわけですから、何年でもできませんので、任期は1年になっています。しかしロータリーの組織は続きます。ロータリーは対外的

にも奉仕活動を行いますので、外からは、その長が変わろうともロータリークラブという、あるいは国際ロータリーという組織そのものを見られるため、そこには筋の通ったロータリー精神があることが大切です。正に非連続の連続であります。

任期一年制の長所を生かし、欠点をどうカバーするかは大変重要なことです。長所は、① 1年なら何とかできるので、会員殆ど誰もが役を受けられる。② 役を担った会員が、自分の人生経験を生かし、新しい発想で、毎年バラエティに富んだ取組みが生まれる可能性がある、でしょう。そもそも毎年RI会長から出される異なったテーマの下に役員は1年毎に変わり100年以上もの間多くの人の共感を得て大きくなってきたロータリーのあり方は非連続の連続の達人ともいえるものではないかと思えます。実際 ① ノミニー、エレクトという準備制度がある ② RIからテーマと方法が示されているので、基本はそれに沿えば大枠は外れないと思えますが、何より個々人の「変わらぬロータリー精神を伝えていく」との強い志が大切だと思います。それがあれば、非連続が却ってよき連続をもたらします。

私は、本年度、地区の強調事項として、「クラブの長期計画を立てよう」と言ってきました。クラブ会長には次年度、次々年度の役員と一緒に、クラブの方向性について基本的なところはクラブ会員の合意を築き上

げていこうと伝えました。ロータリーは単年度制であり、長期計画はなじまないという意見も耳にしましたが、長期計画の意味をクラブ公式訪問はじめ機会あるごとにお話をし、ご理解をいただき、地区内全クラブで、長期計画を立てていただきました。組織としての連続性を強調したかったからです。7月からはクラブ内で作り上げた長期計画に沿いつつ、新しいリーダーシップのもと、新たな前進の一年となりますことを期待しています。

私は、久邇ガバナーからたすきを受け、この1年間私なりに地区内のクラブにとって地区は何をなすべきかを考えるのがガバナー職だと思いながら精一杯走り、来月片倉ガバナーにたすきを渡します。ガバナーノミニー、エレクトのときに地区の運営方針は ① クラブ中心、地区はクラブ支援 ② 地区組織の簡素化であり、地区の強調事項は ① クラブの長期計画 ② クラブ合同奉仕プロジェクトとすべきと考え、そのように準備し非連続の一年を大きな流れの中での連続にしたいと思って参りました。ガバナー補佐、地区幹事はじめ地区チームの皆様には、私の考えるところをよくご理解し、時間・労力もご奉仕いただき、大過なく1年を終えることができそうでございます。皆様方には厚く御礼申し上げます。

あと1ヶ月ということではっきりしているところでありますが、震災復興支援について、地区内クラブ、地区内ロータリアンより多額に義援金をお預かりしましたので、その有効活用という業務が残っております。全国のガバナーとも知恵を出し合い、被災者の方々にとって最善の使い方をなるべく努力しております。また片倉年度への引継ぎは極めて大事な役目と認識し、行ないます。どうか、クラブ会長におかれましても引継ぎは大変重要なことでありますので、非連続がよき連続となるようご尽力をお願い申し上げる次第でございます。

INDEX

※ ③～②① は、地区ホームページ(Web)上に掲載しております。

<http://www.ri2750.org/>

- | | |
|-------------------|------------------------|
| 1 ガバナーメッセージ | 7 山の手東グループ 活動通信 |
| 2 地区協議会 開催報告 | 8 山の手西グループ 活動通信 |
| 3 地区行事日程 | 9 多摩南グループ 活動通信 |
| 4 千代田グループ 活動通信 | 10 多摩中グループ 活動通信 |
| 5 銀座・日本橋グループ 活動通信 | 11 多摩東グループ 活動通信 |
| 6 京浜グループ 活動通信 | 12 PBG 活動通信(PBGガバナー補佐) |

一年を振り返って (各グループガバナー補佐/常設委員会委員長/地区幹事(統括))

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 13 千代田G/銀座・日本橋G | 18 R財団委員会/会員委員会 |
| 14 京浜G/山の手東G | 19 広報委員会/米山記念奨学委員会 |
| 15 山の手西G/多摩南G | 20 小島 篤 地区幹事(統括) |
| 16 多摩中G/多摩東G | 21 寄付報告/文庫通信 |
| 17 研修委員会/奉仕プログラム委員会 | 22 出席報告/編集後記 |

地区協議会 開催報告

2011-12年度 地区副幹事 片岡 婦美江 (東京麻布RC)



2011年5月18日、「ロイヤルパークホテル」において、『地区協議会』が開催されました。例年を上回る772人の登録で、とても熱気あふれるものとなりました。

片倉ガバナー・エレクトの開会の点鐘に続き、被災者の方々への黙とうが捧げられ、辰野克彦ガバナーの『ご挨拶』、ホスト・クラブである東京日本橋RCの直江一雄会長の『歓迎の辞』をいただきました。

片倉ガバナー・エレクトの開会の宣言に於いては、まず初めに、被災者の方々へのお悔やみのお言葉と共に、各クラブから寄せられた義援金・活動の謝辞と義捐金の使い道の経過報告がありました。そして片倉ガバナー・エレクトの「東日本、日本の復興のため、そして、ひとりでも多くの笑顔を取り戻すために、共に、祈り、そして行動しようではありませんか」という強いお言葉での呼びかけに、この『地区協議会』が例年とは違った意義も持つのだという、引き締まるような空気に会場が包まれました。



続いて、楽しいお写真やビデオ、資料などを用いた『国際協議会報告』がありました。そして、片倉ガバナー・エレクトから、次年度のRIテーマ【こころの中を見つめよう 博愛を広げるために】、また「RI強調事項」についてお話がありました。片倉ガバナー・エレクトの「今回の震災にあたり、世界中の方から届けられた大きなたくさんのエールは、まさに博愛そのものでした。日常に埋もれてしまっていた博愛という言葉をごんごんに身をもって日々感じいったことはありません。この次年度テーマを掲げ、共に進んでまいりましょう」というお言葉に、このテーマがいかに次年度のテーマとして相応しいか、改めて深く胸に刻む思いがいたしました。

次に、片倉ガバナー・エレクトは、『地区強調事項』及び、『地区重点目標』について話されました。「会員基盤の強化」に於いて、若年層会員の増強のため、【若年会員への配慮／35歳未満の若年会員に対して、地区人頭賦課金を半額にする。】が、この場で決裁されました。また、「ロータリー財団への支援」に於いて、2011年度4月から免税対象となっている項目に加え、7月1日からは恒久基金も免税対象になる旨のご説明があり、より一層の寄付増進を訴えられました。そして、ロータリー財団によって設立された【ロータリー日本・太平洋諸島地震災害復興基金】についても触れられ、各クラブの人道の支援活動を地区がしっかりとサポートしていく旨のお話をされました。

『次年度にむけて』市川伊三夫 次期地区研修リーダーよりお話がありました。「教えるとは教わること、本人の天分を伸ばしてあげる手助けをすることです。」というお話から始まり、震災に対しは「戦争の時は助ける側がいなかったが、今は、助ける側【私たち】がいるのではないかと、さまざまな含蓄のあるお言葉をいただきました。また、今まさに誕生しようとしている【東京アイシテイクラブ】のチャーターメンバーのご紹介があり、「新しい友を作ろう、笑顔で声を掛け、礼儀正しくあろう、少なくとも一人は増員に貢献しよう」と呼びかけられました。

『2011-12年度 国際大会 inバンコク』のご案内が、次期国際大会推進委員会 御手洗美智子委員長からあり、続いて、『東日本大震災視察報告』が東京麻布RC 加藤千博 幹事からありました。写真とビデオを交えての被災地の報告は、テレビで見ていた以上に悲惨で、また、ロータリークラブ、ロータリアンの活動が全くできないという状況、そしてRI第2520地区のガバナー、ガバナー・エレクトからのビデオメッセージを聞き、改めて、次期の活動の1つの柱が、この人道の支援活動、被災地区への支援にあるであろうことを実感いたしました。

分科会は、会長・幹事部会、会員基盤部会、広報月信部会、奉仕プロジェクト部会、新世代部会、ロータリー財団部会、米山奨学部会の7つに分かれて活発な研修、審議が繰り広げられました。

分科会終了後、再び、全体で集まり、各分科会のご報告を各代表者からしていただき、その後、市川伊三夫 次期地区研修リーダーより全体の講評をいただきました。

片倉ガバナー・エレクトの『閉会挨拶』と『閉会点鐘』をもって、2011-12年度地区協議会は閉会いたしました。次年度に向け、参加したロータリアンが自らのクラブと、クラブの枠を超えた活動に、意欲と希望をひとつにすることができた有意義な一日でした。



2010-11年度 地区行事日程 (6-7-8月)

6月 4日 (土) 14:00 ~ 16:00	2010-11年度 第6回 RYLA研修会	国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟309号室
6月 5日 (日)	2010-11年度 青少年交換委員会「激励会、懇親会」	国立オリンピック記念青少年総合センター 国際交流棟レセプションホール
6月 4日 (土) 13:30 ~	第16回 ローター日本青少年交換研究会	ホテル奥道後
6月 5日 (日) ~ 12:50	第16回 ローター日本青少年交換研究会	ホテル奥道後
6月 7日 (火) 15:00 ~ 17:00	2010-11年度 運営会議	ガバナー事務所
6月 7日 (火) 14:00 ~ 17:00	2011-12年度 地区ロータリー財団セミナー	JICA地球ひろば 講堂
6月10日 (金) 14:00 ~ 19:30	第3回 日台ロータリー親善会議 ◀中止	ホテルグランヴィア京都
6月11日 (土) 10:00 ~ 21:00	ロータリー平和センター・ホストエリア・セミナー等	国際基督教大学 東ヶ崎潔記念ダイアログハウス
6月13日 (月) 15:00 ~ 17:30	2011-12年度 地区会員増強セミナー	グランドプリンスホテル高輪
6月14日 (火) 17:30 ~ 19:00	GSEメンバー派遣生帰国報告会	メルバルク
6月14日 (火) 15:00 ~ 17:00	2011-12年度 地区役員会	ガバナー事務所
6月17日 (金) 15:00 ~	2010-11年度 クラブ会長・幹事及び地区役員・委員会合同会議 ／懇親会(地区打上げ)	ホテルオークラ東京別館2階「オーチャードルーム」
6月19日 (日) 17:00 ~ 20:30	東京世田谷南RC 創立40周年記念式典 ◀中止	渋谷セルリアンタワー東急ホテルB2階「ボールルーム」
6月22日 (水)	東京シティ日本橋RC 創立20周年記念式典	ロイヤルパークホテル
6月24日 (金) 13:00 ~ 15:00	米山奨学生採用説明会	ガバナー事務所
6月25日 (土)	RLI 卒後コース	国立オリンピック記念青少年総合センター

片倉年度スタート

7月 1日 (金) 11:45 ~ 15:00	ガバナー・元・次期ガバナー懇談会	グランドプリンスホテル高輪B1「プリンスルーム」
7月 4日 (月)	2011-12年度 ガバナー事務所開き	東京倶楽部
7月13日 (水)	第一回会長・幹事会	ロイヤルパークホテル
7月20日 (水) 15:00 ~ 17:00	2011-12年度 地区役員会	ガバナー事務所
8月 6日 (土)	2011-12年度 インターアクト地区年次大会(ホスト:品川女子学院 IAC)	国立オリンピック記念青少年総合センター
8月17日 (水) 15:00 ~ 17:00	2011-12年度 地区役員会	ガバナー事務所

※東日本大震災の影響で、中止となっている行事がありますので、ご注意下さい。

※上記の地区行事日程は変更する場合がございます。予め事前にご確認の上、ご参加下さい。 ★青文字は片倉年度の行事予定です。

千代田グループ 活動通信

福島県双葉町の被災者(避難場所：埼玉県加須市)を慰問、義捐金を直接持参

東京みなとRC 幹事 福原 秀美

当クラブでは、東日本大震災に関連して、地区への義援金拠出のほかに、直接被災者へ届く何かを送ろうということになりました。ただ現地の情報が乏しい中、やみくもに当方の思惑でありきたりの物を送ることは如何か、との判断の下、結局お金を送ろうと結論しました。

届け先については、4月初めの時点では、なかなか現地に行ける状況になかったため、埼玉県加須市の旧高校跡地に町役場ごと1,200人が集団避難している福島県双葉町にしました。

4月19日例会後、加須市出身ですでに同町に個人寄付をしている中島光夫パスト会長の案内で、会長・幹事連れだって、100万円を持参。

避難先は、被災者、町役場の人たち、ボランティアの人たちでごった返しており、ご苦労のほどが偲ばれました。特に、職探しの部屋は超満員で、被災者の皆さんの覚悟がひしひしと伝わって来ました。



がんばろう！ロータリアン

東京麻布RC 幹事 加藤 千博

震災後、会員の中から「震災孤児の手助けをしよう！」という気持ちが盛り上がり、その為にお金を集めよう！直接現地に行って調査しよう！と、どんどん話が進みました。

4月24日・25日の2日間、会員4名で現地を訪問、第2520地区 檜山ガバナー、菅原ガバナー・エレクトほかの案内で宮城県内の被災地を精力的に回りました。

そこで見えてきたものは……想像を絶する過酷な世界でした。

「がんばろう日本！がんばろう東北！」と皆よく口にしますが、家族を、家を、会社を失ってもがんばっている被災者に対してさらに「がんばってください！」という声をかけることはできませんでした。

結局、今回は震災孤児に出会うことはありませんでしたが、それはある意味、喜ばしいことなのかもしれません。今後も支援の手を緩めることなく、我々ロータリアンこそ「がんばろう！」と思います。



銀座・日本橋グループ 活動通信

創立20周年記念例会日を振り返って

東京シティ日本橋RC 会長 大川 幸一郎／幹事 鈴木 逸郎

3月11日(金)午後2時46分に発生した東日本大震災により多数の方々が被災され死者・行方不明の方々は現在2万数千人に達しています。

亡くなった方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

この大震災は、地震・津波による広範囲に及ぶ大被害と東京電力福島第一原子力発電所の事故による強制避難等 未曾有の大災害となりました。

被災された皆様には 心よりお見舞い申し上げますと共に、被災地の日も早い復興をお祈り致します。

この大震災の当日私共のクラブは20周年記念例会・祝賀会をロイヤルパークホテルにて午後5時より催すことになっておりました。

本年度の最大事業として、年度当初よりその準備に邁進してまいりました。

当日は第2750地区辰野ガバナーをはじめ地区役員の皆様や日本橋三クラブの会長・幹事の皆様等多数のご来賓の方々に御出席いただき、クラブの20周年を大いに祝うべく万全の準備を致してまいりました。

午後3時30分に激しい地震の揺れによる被害を案じつつホテルに到着しましたが、すでに、ホテルのロビーに宿泊客をはじめすべてのお客様が集められ、準備された会場への立ち入りも禁止されておりました。

その後、大震災での津波の状況がテレビに映し出され、その被害の大きさが次第に明らかになり、当日の都内の交通事情も勘案し20周年記念事業開催は不可能と判断し、中止を決定いたしました。

当日は電話が殆ど通じず、情報の伝達の出来ない際のきびしさを痛切に感じました。来賓の方々や会員・奥様方も続々ホテルにお見えになり、当日の交通機関の混乱と車の大渋滞も重なり数時間かけて御自宅にお帰りになられた方々も多く、大変申し訳なく思っております。

20周年記念例会は、6月22日(水)に打ち上げパーティを兼ねて催させて頂くこととなりました。

まさか 大震災の当日に20周年記念例会開催が重なるとは思ってもやらぬ事でした。

まさに終生忘れることの出来ない3月11日となりました。

残り1ヶ月、振り返って見れば

銀座・日本橋グループ グループ幹事 井原 博之(東京銀座RC)

2010年7月より辰野ガバナーの①クラブが中心であくまで地域支援 ②地区組織の簡素化 この2大方針の元、岩瀬ガバナー補佐と小生は、各クラブとガバナー(地区)とのパイプ役としての活動をスタートしました。

第1回の顔合わせ懇親会から会長・幹事の対応の早さ、横の連絡の良さ、そして勿論ガバナー補佐のロータリーへの見識とこれなら小生でも幹事が務まると大船に乗って出帆致しました。そして9月末～11月初旬までのガバナー補佐との各クラブ協議会への参加、ガバナー公式訪問のお供という時期に、自分の粗相から腰と頭を打ち、歩く坐るもままならずにガバナー、ガバナー補佐以下関係各位の皆様にご迷惑をかけ乍らガバナー訪問も終わった頃、頭に血が溜まっていた事が発覚、即入院手術という仕儀になりました。

今回より銀座・日本橋グループの単独参加となる東京マラソン給水ボランティアの募集、打ち合わせも関係各位にお願いするだけとなり、11月～1月中旬まで入院、手術、リハビリを2回づつ行い、2月より復帰致しました。

そしてそのまま地区大会、東京マラソンと続けました。しかし浦島太郎状態で出席しただけでした。そして今期最大の事件、3月11日の東日本大地震が勃発し、グループの皆様には短期間での義損金をお願い致しました所、一週間という限られた日程にも拘らず全体で1200万もの義損金を頂戴致しました。対応の早さ、懐の深さには感謝の念に耐えません。又今後も継続的な支援について最後の協議会の時、皆様の熱い思いが伝わって参りましたし、東京中央ロータリークラブの様に直接現地に出かけられて、瓦礫やヘドロの撤去作業に従事するなど、素晴らしいクラブの集合体の銀座・日本橋グループの幹事を務めさせて戴き感謝の念に耐えません。

公私共に大きな事件で一年が過ぎましたが、再度ご迷惑をかけた皆様にお詫びし、何とか一年を全うすることが出来た事(?)に感謝いたします。

京浜グループ 活動通信

今年度のクラブ活動報告

東京羽田RC 会長 太田 博隆

空港と地域との共生のかけ橋を基軸に、7月には恒例の「羽田祭礼のパレード」に参加。これを取りしきる羽田青年連合会へ協力し航空会社、関連会社と共に団扇等の配布で汗を流しながら住民達と交流、終了後は懇親会に臨む。青少年の育成では、羽田航空少年団、大田海洋少年団、蒲田消防少年団等への支援。出雲中学、大森第一中学、都立つばさ総合高校生の職場体験を積極的に受け入れ、働く事の実態と今、勉学に励む事の大切さを指導する。福祉活動では大田区知的障害者育成会バザー及びうめのき園の支援。特徴的な事では「全国空港RCフォーラム」への参加。同じ環境下での奉仕活動について意見交換を行う。この様な連携の中から口蹄疫被害の時も宮崎空港と関わりのある会員達が羽田空港内でチャリティバザーを行い義捐金を募った。

この3月には3年目となる国際奉仕、ボルネオ島サラワク州のサバル森林地区で、先住民と一緒に熱帯雨林再生プロジェクトの植樹(各回2haに800本の植樹と地域先住民作業員15人×7日間の雇用機会を提供できる)活動に参加し、クチンRCとも交流する予定であったが、直前の東日本大震災で急遽中止せざるをえず残念であった。後日現地より予定通りの植樹報告と一日分の日給を削っての災害義捐金が届き感謝する。当クラブ会員の本社、宮城の社員家族が痛ましい被災に遭い、独自に義捐金を募りクチンと併せ送金する。



環境保全への新たな取り組み

東京大森RC 会長 森田 光一

当クラブは、“奉仕の機会”として国際理解と親善・識字率向上、危機下の児童擁護・保険についてネパール学校建設及びメンテナンス、地域の小学校に於ける課外授業を継続して展開してきた。この度極めて今日的な又、将来に亘り重要かつ不可欠なテーマとして、経年より会員にも感心の高い“環境保全”に長期計画で取り組むことになった。この問題は、地域社会との連携に於いて指導的役割と社会貢献を目指す者であり、提唱しているインターアクトクラブにも実施について指導をしている。現在クラブ及び会員企業、事務局の環境改善をテーマに環境省“エコアクション21”取得に向け5回のセミナーを開催し、既に2回の受講が修了した。提示した「クラブ環境方針」を具現化し地域社会と共に歩むべき道を今後も先駆的に実行していくことを次年度会長と共に確認している。



山の手東グループ 活動通信

10周年を迎えて

東京渋谷RC 会長 星野 浩一

渋谷といえば忠犬ハチ公。そのハチ公のもつ優しさと思いやりの心で活動し、この5月に10周年を迎えました。5月16日に創立記念の式典及び祝宴を開催する予定で準備を進めてまいりましたが、3月11日の東日本大震災の発生で、クラブ全員の意見で式典は中止の決定をしました。

しかし、数年前より創立10周年記念の行事の一つとして渋谷区に“平和の鐘”の寄贈を企画し、昨年11月7日に桑原渋谷区長、花岡ガバナー補佐、加藤グループ幹事、他皆様の出席を賜り、無事除幕式を行いました。渋谷区は毎年10月1日を平和国際都市の日とし、区一斉に鐘を鳴らしており、今年の10月1日は、生の鐘の音を鳴らせると、大変喜んでおります。

また、本年3月27日に伝統ある京都西北ロータリークラブと姉妹クラブの締結をいたしました。他地区クラブとの交流を通してロータリーの活動の参考にしたいと思っております。

思えば10年前、東京恵比寿ロータリークラブの子クラブとして誕生し、あっというまの10年でした。その間5周年の記念行事では、渋谷・青山学院ローターアクトクラブの創立を行い、今では地区ローターアクトクラブの中心的な役割を担い活動し、大変心強く思っております。

米山奨学生のお世話をし、青少年派遣生をブラジルより受け入れたり、留学生の派遣等も積極的に行っております。

昨年度はロータリー財団よりクラブ1人当たりの寄付金額が第2750地区で一位という栄誉を受けました。

地域密着社会奉仕活動の一つとしては、渋谷こども善行表彰制度を実施しております。これは渋谷区内の公立小中学校の生徒を対象に1年間に目立たなくても善い行いをした生徒を学校より推薦していただき、表彰状とバッジを送る制度で、本年も3月に14校209人の生徒を表彰いたしました。先生方の協力が重要です。また、渋谷駅周辺の美化活動に参加しています。



国際奉仕活動は、昨年度2009－2010カンボジアのNPO法人と救急隊の技術指導をマッキング・グラントとして行いました。

急遽会長を引き受けた為、十分な準備のないまま年度を向かえ、納得いく活動ができなかったことを反省しております。問題は会員増強がうまくいっていないことです。

来年度以降の重要課題になると考えます。

山の手西グループ 活動通信

東京城南RC 東日本大震災奉仕プロジェクト立上レポート

東京城南RC 会長 小澤 晴夫

平成23年3月12日早朝、我々東京城南RCのメンバーは、昨日の大型地震の余震が続くなか、帰宅難民の避難場所となっていた青山学院大学の正門前に集合していました。この日は、我が東京城南RCがホスト・クラブを勤めクラブの年間行事の中でも最大のイベントのひとつであるクラシック・カー・ラリー第七回RFRの開催初日です。多大なエネルギーを投入して準備を重ねてきたイベントでしたが残念ながら中止となり、我われ会員は、ラリーの集合・スタート地点となる青山学院大学で事後処理などの対応にあたっていました。

このとき、今回のこの地震とTUNAMIさらには原発事故がこれほどまでに大きな災害になることを誰が予想できたでしょうか。

東京城南RCは、『**出会と奉仕の創造**』という中期ビジョンを掲げています。

このわずか8文字に凝縮された東京城南RCの思いは、我がクラブの存在価値や活動目的を端的に表すものであり、クラブの文化として創立時から受継がれてきたものであります。

また、日本初の朝例会クラブとして発足し、数々の独創的な活動を展開してきたことが示すように、自由闊達で進取の精神に富んだクラブです。

今年度クラブテーマは、『**人がすき ロータリーがすき 城南がすき**』というテーマを掲げ、現在の会員にとって最も大切な知人や友人に自信を持って入会を進められるぐらいに我々自身が大好きになれるクラブ創りに挑んでいます。

例会では、毎回 担当の会員が景品(賞品)を用意し、一口500円のドネーションをする城南ロト、会員自身の人生観や価値観を熱く語るスピーチ“我が信条・我が闘争”、出席率100%例会の成功。また、例会外では、J onan- B usiness Workshopを開催し、会員が講師となり月一回3時間を越える勉強会から比国RCマカティサスとの共同奉仕プロジェクトなどなど、ユニークな企画が展開されています。

東日本大震災の災害の大きさが明らかになるにしたがって、会員間の“何かをやらなければ”という思いは強くなるのを感じ、震災から1週間後の3月18日(金)の夕方、今年度と次年度の役員理事就任予定の方々も含めてお声をかけ奉仕プロジェクトを設立するための緊急会議を開催し、奉仕プロジェクト設立の企画案を立て、クラブ協議会にて会員の承認を得る準備を整えました。クラブ協議会は、翌週の3月24日(木)例会終了後に開催され、満場一致にて次のように決議されました。

【今回の大震災対応への基本的考え方】

1. 基本活動方針

クラブ中期ビジョンと今期テーマに則り
城南らしさを活かしたピンポイントで顔の見える継続的な奉仕活動を展開する。

2. 地区活動への協力について(中略)

3. 城南RC独自PJの立上について(中略)

【運営主体組織(リーダーシップ)】

継続性を高度に維持するために次年度の奉仕委員会の理事・役員をリーダーにして今年度理事等を中心に組織化する

【具体的活動内容予定】

- ①緊急対応……食物アレルギーの子供達へのアレルギー対応食品の供給
- ②中長期対応……城南TO気仙沼地区のピンポイントの支援活動
- ③国際対応……姉妹クラブ等からの支援受入れと連携奉仕活動の企画・運営



実は、クラブ協議会で承認される前、3月19日には、大フライングをして辻幹事は、徳山副幹事を同行してアレルギーの子供達への食糧をトヨタから借受けたハイブリッド車に満載して被災地に向かいました。

現在、奉仕プロジェクトは、アレルギーの子供達への緊急対応を概ね終え、“お祭りと炊出しサービス”を展開しながら次の中長期的奉仕活動へ移行するため、二人の会員を亡くした気仙沼RCとの連携を深めながら現地ニーズ収集に注力しています。

被災された全ての方々が一日も早く本来の笑顔と夢を取り戻せますように心からお祈り申し上げます。

多摩南グループ 活動通信

明るい話

東京町田RC 会長 井上 勉

今だ、11万人程の被災者の皆さんが避難所で生活され、余震の心配の中、不自由な日々を送られていることを思うとき心が痛みます。3月11日に発災した大地震の混乱の中で、礼節を重んじる国民は冷静で、礼儀正しく行動し、お互いに助け合う強い絆で結ばれていました。

また、発災直後から被災地の状況を鑑みて祝い事等が差し控えられました。

ロータリー・クラブにおいても、周年行事等が各クラブで中止になりました。東京町田RCにおきましても、町田四RC合同例会、春の旅行、町田四RCゴルフコンペを中止しました。年度を締めくくる行事でありましたが、正しい判断であったと考えます。

その様な中、明るい話題がありました。姉妹クラブであります台中中区RCから、多額の義援金の申し入れがありました。1999年に発生した台湾大地震時に当クラブから200万円と6000米ドルを義援しましたが、それに対する感謝の意ということであります。

発災当日に例会があり、会長の「日本を支援する」という方針のもと、数百万円の募金が集められたようです。

6月3日の当クラブ例会に会長馮添杰様、台湾大地震時の会長王陸谷様、国際奉仕委員長佐々木隆三郎様が義援に来訪されます。海外から日本に対する心温かい支援が数多くありますが、台中中区RCの会員皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。東京町田RCは次年度50周年を迎えますが、記念事業の中で台中中区RCの意向を尊重して大震災のために有効に役立てさせていただきます。

志を新たに

東京日野RC 会長 井村 廣巳

東北関東大震災を経て誠に残念ながら準備を進めてきた記念式典を取り止める事態となり、式典費用の一部50万円を第2520地区ガバナー事務所にお見舞文と共に義援金をお送りいたしました。

東京日野ロータリークラブは1966年4月1日、東京八王子ロータリークラブをスポンサークラブとして創設されました。以後45年間「ロータリーの奉仕の精神」を共通の理念とし、日野という地域社会を舞台に様々な活動に取り組んで参りました。私たちは地域社会を育む奉仕活動をしながら、同時に地域社会によって育てられてきたように思います。

震災を経て平常例会を開く事のできないクラブがある今、例会こそがロータリー活動の出発点でありゴールであると実感しています。幸いにも我がクラブの例会場は四季折々の香を豊かに感じさせてくれる高幡山金剛寺客殿にあり、心願れる環境のなかで全員参加のクラブ運営を目指し各委員会が知恵を出し合い充実した例会作りに励んでいます。

東京日野ロータリークラブの未来をこれまで以上に輝くものにするため、会員一同、志を新たに活動に積極的に取り組んでいく所存であります。



周年事業を終えて

東京町田東RC 会長 佐々木 章世

20周年記念事業を「意義ある催しに」を目指し1年半前から会議を重ねて参りましたが3.11の未曾有の大震災で、あまりにも悲惨な状況と必死に生きている被災地の人々の心情を想い、一時は中止も考えたのですが“縮小して最小限の費用で行おう”と直前になっての変更でした。

式は、ささやかでしたが、誇り高い20年の歴史を令夫人、友人、退会者と共に祝うことが出来たことを心から安堵しております。

懇親会では、小・中学生の「地球環境ポスター展」の入賞作品の展示や知的障害者が働くリス園での奉仕活動の一環として、子供たちと作った巣箱の作品の展示、又、長期計画としてスタートした奉仕活動の発表等も行いました。

20周年を契機に東北の復興の支援と共にクラブの更なる活性化の為、全会員が一丸となり知恵を出し合って、奉仕と友情の輪を広げてゆくことを誓い合う最良の日となりました。



多摩中グループ 活動通信

小金井から宇宙へ はやぶさ講演会

東京小金井RC はやぶさ講演会実行委員長 渡辺 嘉二郎

4月24日午前7時半、それぞれ揃いのジャンパーを着た東京小金井RC、青年会議所、東京小金井さくらロータリーのメンバーは法政大学小金井キャンパスの正門に勢ぞろい。今日は10ヶ月前から練ってきたJAXAの川口淳一郎教授を迎えて「小金井から宇宙へ…はやぶさの栄光の軌跡をたどる」講演会の開催日。

東京小金井RCは、職業奉仕の一環として地域の青少年に「仕事の面白さ、厳しさ、またその中での生き甲斐」を知ってもらうために、はやぶさプロジェクトのマネージャーであった川口先生にその経験を語ってもらう企画をたてたのでした。この企画は東京小金井RCが主として汗をかくとしても、地域の諸団体とともに取り組もうという考え、法政大学理工学部と共催し、小金井市教育委員会、小金井市商工会、小金井青年会議所、東京小金井さくらRCの後援を受ける形で開催しました。この間、東日本大震災、それに伴う津波と原子力発電所の事故が発生し、また頻繁に起こる余震を経験するたびに、この企画が実行できるであろうかという不安がありました。しかし、被災地を励ますためにも我々が意気消沈してしまってはという思いから、万全の余震対策を講じつつ、実行することにしたのでした。

当日は、地域の子供たちやその父母、小金井市にある学校の小中学生そして高校生から大学生まで450名を超える参加者が会場を提供してくれた法政大学の講演会場に集まりました。川口先生の講演の前に「はやぶさの軌跡」を上映し、それから先生の講演に移りました。先生の講演は小学生から大学生そして大人のだれが聞いてもわかるものでした。講演の締めくくりに会場からの質問を受けたところ、子供たちの手が林の木々のように挙がり子供たちの関心の強さがうかがえました。先生は丁寧に質問に応えられ、最後の質問「はやぶさの乗り心地はどうでしたか？」に会場からどよめきが上がり「快適でした」の返事でした。東北新幹線はやぶさのことです。

講演会終了後は、会場に先生に控えていただき、子供たちの要望に応じる形で先生からサインをもらったり、ツーショットの写真を撮ったりのサービスをいただき、参加者は満足げな顔で帰路につきました。

最後に、講演会場ではそれぞれの団体のユニフォームである赤色、オレンジ色、青色のジャンパーを着たメンバーが入交って整列し先生を中心に全員の集合写真で閉めたのでした。

翌日、小金井市にある高校の校長先生や担当の先生から、子供たちの勉学のモチベーションが上がったとか生徒のキャリア教育として大きな効果があったという言葉が寄せられました。また参加した大学生は感動して涙が出たと漏らしておりました。

東京小金井RCは職業奉仕をこのような形で取り組みました。その取り組みに敏感にそして深く反応してくれた子供たち、彼らの中に大きな希望を見出したのでした。



多摩東グループ 活動通信

東京武蔵府中RC 活動報告

東京武蔵府中RC 会長 菅野 修逸

今年度テーマ[地域に根ざし育む奉仕で世界の懸け橋に成ろう]をクラブテーマとしてスタートし、クラブ理事、役員、そして会員各位総力の下、青少年育成と環境保全の見地から、継続事業の柱として、「間伐体験学習」をこれまでに継続展開をしてきまして、今年4年目にして、この事業が評価され、我がクラブの地元である府中市が、委託事業として行政の係わる事業と成りました。

年度開始早々、2010年7月26日27日の両日、長野県佐久穂町にて、参加小、中学生40名程含む、クラブ会員及び現地協力者等、延べ人数100有余名程で間伐体験学習を行い成功裡に結ぶ事と成りました。

この事業が今後様々に展開をすべくクラブ会員、行政関係各所、協力団体等と、共に手を携えクラブ事業の柱として邁進する覚悟です。それから、毎年卒業生が遅く巣立って行く「卒業生を送る会」を昨年9月5日に行いました、今年は子供たちのリクエストでもあります「不撓不屈」の文字をあしらったTシャツを寄贈し、少年軟式野球連盟にクラブ創立以来継続して支援して居る処であります。

次に国際奉仕としては、市内に在ります農工大学、在学外国人留学生との来る2月3日節分祭参加、昨年暮れには、ボーイスカウト達との餅つき体験、クラブ例会招待での会員との交流等々、日本の文化や相互の理解に関する支援の、一方で、府中市の委託事業であります府中国際交流サロンでの外国人「日本語学習」習熟等々での学習成果発表会、開催等々を、9月18日に行なった様に、日本語学習者に側面支援を継続し行っています。

そしてその他の事業につきましては、当クラブの係わる継続事業としての、昨年12月11日人権週間に因み、府中市に在ります芸術の森劇場ふるさとホールにて、これまで15回に亘り行っております、市内小中学生に依ります、応募総数8000有余編から選りすぐられ、24名からなる人権作文発表関連の共催、いずれも優秀な作品の発表、等々を行いました。

以上のように新世代奉仕、国際奉仕を軸とし五大奉仕を充実させるべく行動し、更なる新世代関連事業の開発にもプロジェクトを組織し、計画化を模索し、実行して行くところでございます。それから、他地区交流としましては、隣国、韓国ソウル文化ロータリークラブとの友好クラブとしての交流を活発にし、共に行動できる、マッチング・グラント開発へと将来に向け多国間でも交流を促進して行くつもりでございます。

結びに、設立から今年度に至る23年の歩みから、様々に奉仕事業を開発し、地域に根ざす奉仕をと、クラブ会員各位の創意を結集しながら行ってまいりました。東京武蔵府中ロータリークラブは会員相互の親睦があってこそ、何よりすばらしい地域奉仕として労を惜しまず、また一方で世界社会に大いなる希望をと、切に願い突き進むものと考えております。以上活動報告とさせていただきます。



東京たまがわRC 今年度の活動

東京たまがわRC 会長 伊東 正文

今年度、新たな継続事業として青少年育成の目的で地元高校生と知的障がい者のみなさまとウキウキサッカー教室参加で交流を深め地域に密着した奉仕活動を展開致しました。社会奉仕活動では狛江市民まつり参加でバザー、並びに盲導犬育成募金活動の実施で、ほぼ目標金額を達成し、狛江市福祉協議会、川崎市盲導犬育成センターへの寄付も無事終えました。例会のプログラムでは近年入会した会員と共にロータリーについて、地区委員の方やパスト・ガバナーに卓話を依頼して勉強をし、またロータリー情報委員会の提案で例会プログラムの中で10分程度、ロータリーの歴史や定款、細則、綱領などの勉強の時間を設けました。

GSEメンバーがシカゴより来日後、我がクラブ主催で手巻き寿司ランチ、箸作り体験イベントを開催、並びに最初の例会に我がクラブにご参加いただき、有意義な例会を楽しむことが出来ました。また当クラブからのGSEメンバー派遣も決まりシカゴでお世話になりました。次年度はフランスからの交換学生受け入れで準備に取りかかっております。広報では狛江市、並びに近隣の皆様に少しでもロータリーに興味を持っていただくために日経新聞に折り込み広告で広報活動を致しました。今年度最後のイベントとして5月29日、日曜日に知的障がい者の皆様と地域の中・高校性を交えミニコンサートを開催し、今年度の奉仕活動の締めくくりとなります。



PBG 活動通信

奨学金プログラムを通して(PBGの活動)

PBG ガバナー補佐 Joe RIOS (Rotary club of Northern Guam)

PBGグループのメンバーは一律に今回の大震災の甚大さに驚くとともに、心を痛めております。各クラブは被害の支援に少しでも役立とうと努力した結果7千ドルの義援金が集まりました。PBGメンバーの皆さんの寛大で温かい気持ちに心から感謝します。

2007年以来、今年で5回目を迎える第2750地区フレンドシップ奨学金は、ロータリーの助け合い精神のもと、毎年グアム大学に通うミクロネシアの学生を対象とした奨学金です。地区内のクラブが奨学金プログラムを持ちまわりで担当しますが、今年は東京恵比寿ロータリークラブがスポンサーとなっています。奨学金はこの地域の学生に、より高い教育を受ける機会を与え、将来的に地域のリーダーとして育ててもらうことを望んで贈るものです。

東京恵比寿ロータリークラブが15周年記念事業として行なう今年の受賞者はサイパンから来てコミュニケーションを専攻しているデマパン嬢で、学費として1万ドルが贈られます。

過去のスポンサーは、東京広尾、東京城西、東京国立、Tumon Bayの各ロータリークラブで、卒業生はマリアナス・ローターアクトの会員や役員となって活躍しています。

私たちはPBGがこの奨学金プログラムを通して、この地区内外のリーダー、ローターアクター、ロータリアンを引き続き育て輩出させるために毎年スポンサー・クラブを探しています。

最後に、本年度PBGグループのガバナー補佐としての私の役割もまもなく終わろうとしています。地区内で地域の社会を支援するロータリーやその活動に今更ながら共感を覚える貴重な体験をさせていただきました。

Through Scholarship Program (PBG Activities)

PBG ガバナー補佐 Joe RIOS (Rotary club of Northern Guam)

Rotarians throughout PBG were in disbelief to hear about the Japan disaster. Each PBG club eagerly tried in many ways to help including raising over US \$7,000 in relief funds. I am touched by the generosity of our fellow PBG Rotarians for their support.

In the spirit of supporting Rotary, the RI District 2750 Friendship Scholarship was sponsored this year by the Tokyo Ebisu RC. Each year since 2007, a Club within District sponsors a scholarship program for citizens of PBG the Micronesia Region who are officially qualified to attend the University of Guam.

The scholarship is awarded primarily to encourage students from this region to pursue a higher education and give them an opportunity to complete their baccalaureate degree and become a leader in their community.

The Tokyo Ebisu 15th Anniversary Scholarship recipient Ms. Daisy Demapan from Saipan was recently awarded \$10,000 to continue her degree program in Communications.

Tokyo Hiroo, Tokyo Josai, Tokyo Kunitachi and Tumon Bay Rotary Clubs are past sponsors who have contributed to the success of their scholarship recipients graduating from UOG and also becoming a member or officer of the Rotaract Club of the Marianas. Currently, two of the past scholarship recipients serve as officers of this Rotaract Club.

Every year we search for a Club to be a sponsor so PBG can continue to grow and foster leaders, Rotaractors and Rotarians within our District and beyond.

This Rotary year has come to an end for me as PBG Assistant Governor. I must say that I am just as excited now about Rotary and what we do within our District to support our community.

千代田グループ

ガバナー補佐の1年を振り返って…辰野年度の「ロータリーモザイク」

千代田グループ ガバナー補佐 金澤 洋（東京新橋RC）



ロータリーの成果は「一人ひとりのロータリアンがそれぞれ種々雑多な寄与貢献を捧げた結果として出来上がっているのであるから、これを“ロータリーモザイク”と呼ぶことは当を得たものである」(ハロルド・トーマス)

これは、今期地区研修リーダーの谷島パスト・ガバナーから薦められた著書「ロータリーモザイク」の序文の一節です。私はこれを引用しながらガバナー月信の7月号で「辰野年度で、これからの1年間、どのようなモザイクを貼り付けていくことができるのか、楽しみでワクワクする」と書かせていただきました。辰野年度の終りにあたり、紙数の制限はありますが、この1年どんなモザイクが貼り付けられたかを振り返ってみたいと思います。

- ①「クラブ中心」で多彩なモザイク：辰野ガバナーの方針の第一は「クラブ中心」。先月のクラブ最終訪問で、各クラブがその意味を十分理解し、それぞれに見事なモザイクを貼り付けたことを実感しました。
- ②「長期計画」で新たなモザイク：「長期計画」の考え方に当初戸惑いも見られましたが、グループ内各クラブは、最終的にその趣旨を確実に理解し、討議を重ね、それぞれ実に立派なモザイクを完成し、貼り付けました。
- ③辰野ガバナーご自身が貼り付けたモザイク：辰野ガバナーはあらゆる機会にロータリーへの思いを語られ、示唆に富むモザイクを沢山貼り付けられました。枚挙に暇がありませんが、「ロータリーは高潔性・誠実性を持ち合わせた多様な人間集団」と定義づけてはどうか（「ロータリーの友」4月号）というモザイクが特に心に響きます。
- ④年度の第4コーナーで「東日本大震災」が発生。私たちは、今ロータリーとして被災地に対して何ができるかを皆で真剣に考えています。きっと新たなモザイクが沢山貼り付けられるでめいしょう。振り返ってみてガバナー補佐としての私も、皆様とともに辰野年度のロータリーモザイク造成に参加できたことを幸せに思います。皆さま1年間ありがとうございました。

銀座・日本橋グループ

一年を振り返って

銀座・日本橋グループ ガバナー補佐 岩瀬 敬一郎（東京銀座RC）



平成21（2009）年7月17日辰野ガバナー・ノミニ（今後はノミニは外す）のもとガバナー事務所に於いて第1回ガバナー補佐研修会が地区研修委員会委員長・副委員長、地区幹事・副幹事、地区会計・副会計出席して開催された。

その席上辰野ガバナーから2010-11年地区運営基本方針の発表が有り、「クラブの重要性」、をはじめ具体的にその内容を説明された。

2010-11年レイ・クリギンスミスRI会長の「地域を育み、大陸をつなぐ(Building Communities Bridging Continents)」は真さに時宜を得た呼びかけです。

- ❖ 銀座・日本橋グループ9クラブは東京の中心部を対象に活動している。
本年度ガバナー訪問は、平成22（2010）年日本橋・日本橋西（10月12日）、日本橋東・シティ日本橋（10月15日）、銀座・銀座新（10月27日）、築地・中央・中央新（11月1日）に開催された。
地区内に91番目の東京米山友愛ロータリークラブ（2010年3月16日RI加盟認証）が誕生、米山学友が中心となって可成りユニークな運営をしている。
銀座・日本橋グループは7回グループ協議会を開催し、同時に参加者の親睦も深める事が出来た。
- ❖ 一年を振り返ればやはり平成23（2011）年3月11日発生した『東日本大災害（地震・津波・原発）』である。
この間にRI第2750地区ではいち早く義捐金を募集し、ロータリーガバナー会中心に被災RI地区へ届けたとの報告を受けた。

我々ロータリアンとしてはこれに終わらず今後共長い期間で支援を続けて行きたい。

京浜グループ

命をかけた600日

京浜グループ ガバナー補佐 山本 松郎（東京羽田RC）



辰野年度のガバナー補佐をお受けして一年間、やがて満期除隊の6月30日がやってくる。「命をかけた600日」という大仰なタイトルであるが、これには次の様なアクシデントがあった。というのは、辰野年度がスタートする前年の夏頃から補佐エレクトの研修は始まっていた。ところが秋口になって突然左脚に異変を感じ歩行不能になった。早速診察を受けたところ、「脊椎管狭窄症」と診断され、「癌や脳腫瘍の様な緊急性はないので急ぐことはないが」と手術を勧められた。が周りの連中からは「OPはやらないほうがよい。失敗すれば一生寝たきり」とか良くは云わない。このまま新年度になれば、多くの

方々に大変なご迷惑を懸ける。とても補佐の責任はもてない。決心してガバナーに事情を説明して辞表を提出した。

長くなるので途中の経緯は省略するが結局辞表は受理されなかった。

しからば命を懸けて太く短くやるしかない、「6月までには歩けるように」とお願いしOPを受けることにした。幸い予定通り退院出来たがすぐ新年度の「ガバナー公式訪問」が始まり789の三ヶ月間想定外の酷暑を乗り切る羽目になった。ところが入院中代理を務め助けて頂いた、船橋 寛グループ幹事がガバナー公式訪問が終ると間もなく急逝された。生前私に「ガバナー公式訪問が終るまで何とか頑張ってください。」と言っていたのはこのことだったのかと因縁めいたアクシデントに、無常を一入感じさせられました。ご冥福をお祈りいたします。彼の余生を授けられた命と感謝している。後任には、大野弘子クラブパスト幹事が就任し助けられている。こうして多くの皆様方のおかげで「波乱万丈の命を懸けた600日」が終ろうとしている。しかし最も感謝すべきは、ロータリアンであった事、そして私の辞表を受理されなかった、辰野克彦ガバナーのおかげであった事と思っています。第2750地区の皆さま有難うございました。 元気ですよ。

山の手東グループ

ガバナー補佐の勤めを振り返って

山の手東グループ ガバナー補佐 花岡 弘昌（東京西南RC）



経ってしまえば早いものです。明けて一昨年初、辰野ガバナー（エレクト）から内命を受け、暮に“キックオフ”として第1回のグループ協議会を開き、10 RCの会長・幹事が顔合わせをしてから18カ月になります。以来、数々のテーマで12回のグループ協議会を行ない、いよいよ6月上旬に無事、最終の第13回協議会を予定するところまで来ました。

大きな感激は辰野ガバナーがGETSから帰られてすぐ、地区役員会メンバー全員にお揃いのネクタイを頂戴したことです。ネクタイの裏にはRI会長レイ・クリンギンスミスさんの“Building Communities Bridging Continents 2010 - 2011”の文字が入っていました。

その後今日まで辰野ガバナーの出られる会議・会合には必ずこのネクタイを着用しています。数十名がずらりと揃いの装いになるので壮観です。

本年度の大きな特徴は研修リーダー谷島パスト・ガバナーと鬼島研修リーダーサブのご熱心な推進によるリーダーシップ育成セミナーの充実した普及です。3段階の研修で各RCにまで浸透を図りました。

一方当山の手東グループでは、ガバナー補佐の各RCへのガバナー公式訪問は13:00からの30分間に卓話を行うことが伝統になっております。その内容企画にグループ幹事の加藤書久さんと地区の図書館“2750地区文庫”に通い、DVDを使つてのある種“ロータリーの源流”の一部を解説しました。

ガバナー補佐プロパー的な行事としての“IM”はいろいろ討議した結果、“国際奉仕の現場を考える”でスーダンの医療活動の川原尚行さんとケニアの“ニャティティ”演奏家アニャンゴこと向山恵理子さんに講演と演奏をお願いし11月8日、盛大に実行しました。

2月下旬の地区大会では辰野ガバナーの新しい企画で、全RC会長のひと言自慢とクラブ紹介がとても印象的で、また、大変うまくいったと思います。

山の手西グループ

一年を振り返って

山の手西グループ ガバナー補佐 小粥 定美 (東京成城新RC)



山の手西グループは昨年3月国際ロータリー加盟認証を頂き、私共の仲間入りした東京米山友愛RCをいれ11クラブからなっております。ロータリーの原動力は正に親睦にあるという考えから、グループ内会員の親睦を深めるため年度初めの7月26日にIMを実施致しました。そのコンセプトは「親睦」とし、多数の会員に参加して頂き、当初の目的を果たす事が出来ました。

グループ協議会(会長・幹事会)は多数の意見により毎回18:00から実施し仕事への影響を出来るだけ避けるようにしました。これまでに10回実施し、6月6日の最終協議会を加えて11回の予定で、その都度、辰野ガバナーの方針を伝えると共に、会長・幹事の忌憚のない意見を言い合う中で親睦を育み、それを通してグループ内クラブ会員全員の交流を心がけました。その結果東京世田谷RCがホストの合同プロジェクトにもグループ内クラブが数多く参加し、それ以外でもそれぞれのクラブで実施のプロジェクトにグループ内の他クラブが参加する等協調関係が一段と進んだように思います。クラブはそれぞれが特色を持っており、各クラブがその特色を生かした素晴らしいロータリー活動を実践したと思います。特に会員基盤の強化には各クラブの努力によりグループ全体で純増23名(3月末日現在)と大きな成果を上げました。特に東京世田谷南RC、東京成城新RC、東京米山友愛RCの各クラブの実績は大いに評価できると思います。

今年度、周年行事は3クラブが予定して居りましたが、3月11日の東日本の大震災を受け、2クラブが奉仕プロジェクトを除きその大部分の行事を中止し、その資金を震災への義援金と致しました。振り返って見て、あっという間の1年であった様な気がしますが、素晴らしい仲間と会う事が出来、本当に貴重な1年であったと思います。

多摩南グループ

一年を振り返って

多摩南グループ ガバナー補佐 加藤 高白 (東京八王子北RC)



ガバナー補佐としてグループ内11クラブのクラブ協議会と公式訪問、約450人のロータリアンの皆さまと接することができました。

この経験が、私自身にとりまして非常に勉強になったことはもちろんですが、数多くの、才能にあふれた方々がグループ内の各地で熱心に活動を展開していることに感動を覚え、ロータリーの底力を実感することが出来ました。

クラブリーダーシップ育成セミナーでは「ロータリーの歴史を学ぶ」をテーマに講師を担当いたしました。私自身が一番勉強させて頂きました。

中国の格言に「十年樹木、百年樹人(十年先を思うならば木を育てよ。百年先を思うならば人を育てよ)」とあります。木も人も、植え、育て、大樹と仰ぎ見るには、長い歳月を必要とします。古来、人は木に人生を重ね合わせてきました。励ましの「果実」が実るのは、10年、20年、あるいは50年後かもしれません。ロータリー 200年の樹歴の強い木に育つ未来を信じて開催させて頂きました。

2010年11月には「ロータリアンが主役の全員参加・IM」をテーマに掲げて開催いたしました。会長・幹事様はじめ、各クラブ代表の実行委員の皆様には、万全の準備を整えて頂き、有意義な大成功のIMだと自負しております。

辰野ガバナー、地区役員のご指導を賜り、ガバナー補佐としての役目を果たせたかなと1年間を振り返りながら思っています。

最後になりましたが、出会いを大切に、グループ内ロータリアンの皆様、ホスト・クラブの皆様には感謝を申し上げます。私も7月よりロータリーで最高の地位であるとも言える一会員に戻ります。1年間ありがとうございました。

多摩中グループ

ガバナー補佐の一年を振り返って

多摩中グループ ガバナー補佐 信山 勝由（東京小金井さくらRC）



ガバナー補佐の一年を振り返ってということですが、実は年度開始前の2009年秋に開始されたガバナー補佐研修から、今年度の活動が始まったというべきでしょう。

ガバナー補佐を引き受けたのはいいのですが、ガバナー事務所での研修などを聞くにつれ、ガバナー補佐の役割の実に重要なことを痛感させることばかりで、改めて事の重大さを認識し、身の引き締まる思いをしたものでした。

我々の多摩中グループでは年度開始からガバナー補佐が各クラブを表敬訪問することが慣例となっており、2010年7月の年度開始当初から12クラブを順次訪問させていただきました。多摩中グループは12クラブ間での交流が活発であり、またクラブを取り巻く環境や事業内容などもそれなりに承知していると思っていましたが、実際に例会に訪問すると、クラブ毎のカラーの違いや状況の相違を実感でき、それぞれのクラブの事情に応じてグループの運営を進めなければならないことを強く感じました。また同時に会長・幹事のみならず、クラブ会員の多くの方と親睦を深めることができ、その後のグループ運営を円滑に進めることに役立ったのではないかと考えております。

ところで、この一年で最も心に刻まれた出来事は、もちろん3月11日に起こった東日本大震災です。被災をされた皆様には心よりお見舞いを申し上げるものです。

この震災を前にして、各ロータリークラブの皆様はクラブとして、また個人として、被災地の復興と生活の再建に協力していらっしゃると思います。このような困難な時だからこそ、個人を超えた、利害を超えたロータリークラブの活動に力を注がなければならないと感じております。ガバナー補佐として、この困難な時にその任に当たれたことは大変に意義深いものと感じており、この震災復興の一助になれたのであれば大変に嬉しく思います。

最後になりましたが、今年度、グループの運営にご協力をいただきました各クラブ会長・幹事の皆様には心より感謝を申し上げます。

多摩東グループ

一年を振り返って

多摩東グループ ガバナー補佐 岩倉 哲二（東京調布RC）



今年度の地区強調事項の一つにクラブの長期計画の立案と推進があります。STRATEGIC PLANを訳して長期計画という言葉にしたものと聞いています。

単年度制の思考になじんできた大部分のクラブにとって、3年～5年というスパンで物事を考えて計画をたて、これを実行するという行動パターンは今までになかったものではないかと思います。

各クラブには昨年の6月に長期計画を作成していただき、また今年の3月から4月にかけて再検討をしていただきました。今年度のクラブ会長・幹事の方がご苦労された一つにこの長期計画の作成があったかなと考えている次第です。

だが、この思考方法は、今後、クラブ活性化の有力な手段の一つと言えます。

地区大会でこの長期計画の発表をいただいたクラブの一つに東京武蔵府中ロータリー・クラブがあります。多摩地区では唯一の発表クラブです。

その内容を今改めて読んでみますと、3年目標を、①会員基盤の維持強化～10パーセントアップ、②地域のニーズを調査し、地元に着目した新規の奉仕プロジェクトの模索、③一般市民に対するロータリー活動に関する広報の強化に置き、それぞれ、1年目、2年目、3年目の年次目標が具体的に明らかにされており、簡潔で読む者にわかりやすく説得力ある内容となっています。

終わりに、この1年、準備段階を入れると2年となりますが、多くの方のご指導、ご支援いただいてガバナー補佐の仕事を務めることが出来たことに心から感謝を申し上げてこの稿を終わらせていただきます。

研修委員会 研修リーダー

一年を振り返って

地区研修委員会 委員長〔研修リーダー〕 谷島 昶（東京羽田RC）



年度の研修を始めるにあたり、研修委員会が先ず考慮したことは地区重点目標であったことは当然です。それはクラブの長期目標と合同プロジェクトの二つでありました。とくに前者はRIとしても数年前から委員会を立ち上げて検討を続けてきたもので、近年になって中核となる価値観と三つの要素からなるビジョンとして集約されたこともあり、クラブが年次計画の基になる長期計画を作成するよう、RIより強く要請されました。地区研修委員会は自身の研修計画を作るにあたり、そのことを十分に考慮したことは言うまでもありません。

さて、当委員会の年間を通しての活動の柱は、前年度から始めた6回のガバナー補佐研修会でした。ガバナー補佐はグループ協議会を通して各クラブに太いパイプをお持ちなので、このルートを使わせて頂き当委員会の意とするところを伝えていただきました。

長期目標作成を念頭に置き12種類の研修資料を用意し、座右に置いて使用いただけるべく配慮しました。年度の始まる前の三大研修では、研修リーダーより効果的なクラブとCLPを重点とした講話を行いました。いずれも長期計画に密接に関連した内容でありました。

リーダーシップ育成セミナーは、研修委員会で作成したテキストに基づき、研修リーダーよりガバナー補佐へ、次にガバナー補佐よりクラブ研修リーダーへ、そしてクラブ研修リーダーより新入会員を含むクラブ会員へと三段階のリレー研修を行い、研修を与える人、研修を受ける人の両者が共に学ぶことで、研修効果を高めるようにしました。このテキストは研修対象でない一般のロータリアンからの配布要望も多く、予定外の多数の印刷をせざるを得なくなり、委員会として嬉しい悲鳴を上げました。

奉仕プログラム委員会

一年を振り返って

奉仕プログラム委員会 委員長 熊野 隆喜（東京城西RC）



職業奉仕・社会奉仕・国際奉仕・新世代奉仕の全部門の委員会の皆様のご協力によって無事次年度にバトンタッチ出来そうです。各委員会の主な活動を振り返ってみます。

インターンシップ委員会：都立高校7校・630名の高校生の職業体験を行いました。特筆すべきはRI第2750地区に文部科学大臣から感謝状が贈呈されたことでした。

環境保全委員会：各クラブが行っている環境保全活動について冊子に取りまとめて全クラブに配布しました。次年度以降のクラブの活動に参考になると期待しています。

世界社会奉仕委員会：奉仕プログラムセミナー（世界社会奉仕と青少年交換）を1月17日に開催しました。各クラブの意欲向上に繋がればと思います。

国際友愛委員会：韓国の姉妹地区第3650地区と当第2750地区のお互いの地区大会での懇親が主要な行事でした。第3650地区とはさらに密接になったと思います。

インターアクト委員会：全提唱クラブ合同開催のインターアクト年次大会を7月31日に開催しました。女子マラソンの有森裕子さんの講演など有意義な年次大会でした。

ローターアクト委員会：東日本大震災の後のローターアクト年次大会は4月16日に開催され『災害のボランティアについて』のテーマで討議が行われました。

RYLA委員会：第7回RYLAセミナーを9月18日～20日に31名の参加で開催されました。すばらしい感想スピーチと共に新しいライラリアンが生まれました。

青少年交換委員会：8名の来日生は残念にも東日本大震災で途中帰国となりましたが、それまで有意義な日本滞在を行ったと思います。派遣生の帰国後の報告が楽しみです。

日韓短期交換は各4名の交換が行われました。

以上ご努力を頂いた委員の皆さんと全クラブの皆さまに感謝し報告を終わります。

ロータリー財団委員会 活動通信

2010-11年度を振り返って

ロータリー財団委員会 委員長 福井 衛 (東京武蔵府中RC)



本年度も「ロータリー財団プログラムへの参加と資金調達(寄付増進)はロータリー財団が有効に機能してゆくための車輪の両輪」ということをモットーとして活動してまいりました。

R財団のポリオ撲滅活動の浸透ならびに地区補助金(DSG)やマッチング・グラント(MG)に参加するクラブも徐々に増え、本年度は辰野ガバナーの重点事項でもありますクラブ合同奉仕プロジェクトを推進したことなどにより、R財団＝寄付という捕らえられ方は以前と比べかなり少なくなって参りました。寄付すなわちR財団の資金をどのようにして自クラブの奉仕プロジェクトに活用できるかを理解すれば、R財団はすべてのクラブのために存在する財団であり、もっと身近なものとして感じることができると思います。

DSGやMGなどの人道的補助金プログラム、国際親善奨学金やロータリー平和フェローシップ(ロータリーセンター)などの教育的プログラム及びゲイツ財団ポリオ撲滅チャレンジ寄付を含めた寄付増進活動などの本年度の具体的な実績等につきましては、各クラブにメール配信しているR財団ニュースをご覧頂きたいと存じます。

本年度の特筆すべき活動は第6450地区(米国・シカゴ)との研究グループ交換(GSE)の実施です。一昨年の10月より入念な準備を積み重ね、交換時期は双方の地区大会を組み入れ、まず受入が2011年2月13日から3月12日まで、派遣は4月30日から5月28日まで、交換人数はそれぞれロータリアンの団長を含めて6名でした。当地区では4回目のGSEですが、今回は色々な意味で記憶に残るGSEになりました。第6450地区はシカゴRCを含む歴史と伝統がある地区であり、世界中の地区から交換希望が殺到しております。そのような地区と交換ができたことは辰野ガバナーのご尽力の賜物です。さらに受入の最終段階である3月11日に東日本大震災が発生し、当日のホテルでの体験、翌12日には大変な苦勞をして成田空港から無事シカゴに向けて飛び立ったこと、そして彼等の帰国直後からボブ団長以下メンバー全員が日本への支援に対して活発な活動を開始されたこと等々です。次年度早々には今回のGSEの活動報告書を発行致しますので、多くのロータリアンの皆様にお読み頂きたいと存じます。

今後ともR財団に変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

会員委員会

一年を振り返って

会員委員会 委員長 新藤 信之 (東京立川こぶしRC)



今年度の会員委員会は「クラブ中心、地区はクラブ支援」に基づき、クラブ独自の自発的な活動を促すための個別的な支援に徹しました。と同時に「クラブにおける長期計画の立案と推進」に従い、目先の成果だけではなく、ロータリーの将来の姿を見据えた活動に意を尽くしました。

会員開発委員会 会員増強・維持に関するRIの数種類のリソースを紹介しました。具体的には ①クラブ評価ツールに基づくクラブ独自のデータを作成し、クラブの現況及び推移を把握し、長期的計画の立案に資する ②会員、特に新会員の教育と研修を目的としたクラブ独自のプログラムを立案する、ことを提案しました。年間を通し、近隣クラブ相互の情報交換と共に、各クラブの長期計画がどのようなものかを知る目的で、グループ単位の会員増強委員長会議を前期・後期1回づつ計16回開催しました。この間「開発」とは、会員を増やすことだけでなく、長期的視点で会員を育てることを強調しました。

ロータリー情報委員 会今年度は、3年に一度開催される規定審議会の重要性を説き、地区内全クラブの関心を喚起することに意を注ぎました。採択された立法案を地区協議会で速報し、2回に亘り決議報告書を配布、9月の3委員会合同のセミナーで次回規定審議会に向けてクラブ提案の重要性を強調しました。結果、地区大会でクラブ提案の立法案4件を採択しRIへ提出できました。ただ、地区情報研修セミナーを開催できなかったことは心残りです。

ロータリー親睦活動委員会 これからのロータリーは、クラブ合同奉仕プロジェクトと同様に、職業や趣味を通じたクラブを超えた親睦活動が重要であることを強調してきました。その際、地区委員会は世話役に徹し、特定のクラブがホスト役となることが条件です。今年初めての試みである東京渋谷ロータリー・クラブをホストとした「俳句の会」は斬新で楽しい交流となりました。また、地区内会員の卓話者リストは、是非今後も引き続き活用下さい。

広報委員会

広報委員会活動を振り返って

広報委員会 副委員長 矢野 正哉（東京日本橋RC）

「地区広報委員会は5大常設委員会の一つであり、各クラブ広報の支援を行う。」

初めて地区の仕事を担当させて頂く私にとって、第2750地区広報委員会は責任重大な委員会であることはなんとなく認識できました。しかしながら、具体的に何をどう進めて行けばいいのか…水野委員長を筆頭に使命感と戸惑いが交錯した委員会のスタートだったことを覚えています。そして、当然のように地区広報の役割、あるべき姿について話し合いが始まりました。そんな中、まずやらなければならないのは、各クラブ広報の現状把握ではないだろうかということから、全クラブに対してアンケート調査を実施致しました。83クラブ中73のクラブから、悩みや実例・地区広報に対する要望などが挙げられました。要約すると、広報活動はクラブ単位では力不足・メディアが取り上げてくれない・個別クラブの名前を売ることが広報とは言えない・ロータリーの奉仕活動が魅力ある活動と捉えられていない等。

地区広報としては、「各クラブ広報の支援＝広報ソースの提供、広報ツールを紹介」という方向性を確認し、それを具体的に進めるべくテーマを決め活動を開始しました。テーマを纏めると以下ようになります。

- ・地区広報委員会として成果を作り上げる為に委員はできるだけ複数年担当する。また、地区全体から委員に参加してもらえるようにする。

- ・東京マラソン給水ボランティア活動は銀座・日本橋グループに限られたようなものになっているので、地区全体の活動とするためにも、ローターアクトやインターアクトに協力要請しつつ、広報ソースとしての魅力を高めて行く。
- ・地区広報の柱として、銀座で行われている「みつばちプロジェクト」と協力し、養蜂を希望する学校等に出前授業やロータリーマーク入りの巣箱を寄贈する等、メディアに取り上げられやすい広報ソースとして育てて行く。
- ・大震災を忘れない為に、復興支援委員会へ「Rainbow・Ribbon」のバッジ作成を提案し、実施に向けた準備を進めている。



支援バッジ

Rainbowは未来への架け橋を意味しています。
RibbonはRebornの復活或いは生まれ変わりにかけています。

- ・広報ツールとしてのYOUTUBEを地区協議会で紹介し、今後FACEBOOKなどのSNSがロータリーの広報活動に適しているかどうかの調査研究を進めて行く。
- ・アンケート結果の報告書を作成し、各クラブ広報委員会に配布する。

米山記念奨学委員会

一年を振り返って

米山記念奨学委員会 委員長 杉本 當正（東京八王子RC）



それは2010年2月4日のガバナー補佐研修会であった。当年度も米山記念奨学委員長に就任予定だった吉井栄氏が、自クラブの会長を引き受けざるを得ない事情が起こったため、私に委員長就任のオハチが回ってきたのである。

米山奨学事業は、米山梅吉翁の偉業を偲び、1952年に開始されたと聞く。

各クラブの会長や米山記念奨学委員長の寄付金集めに負うところが多いが、地区委員も遊んでいる訳ではない。

地区事業は大きく分けると3つになる。選考と増進と学友である。

選考事業は、指定大学に約100名の推薦をお願いし、地区委員などによる面接試験によって約30名の奨学生を決めている。期間終了式、カウンセラーセミナーやオリエンテーションも大事な行事の一つである。

増進事業は、寄付金を集める事業で、各クラブに目標額をお尋ねし、ガバナーと委員長が地区の目標を決めている。奨学生による各クラブでの卓話が好評であり、募金活動の一翼を担って戴いている。3月11日に発生した東北地方大地震により、寄付金集めは苦しい。

学友事業は、夏と冬に行う奨学生とロータリアンなどによる懇親会、京都醍醐寺の座主でありパスト・ガバナーである仲田順名氏のご協力による、京都研修旅行などを行った。

いずれの事業にも地区委員が積極的に参加しあるいは継続して地区委員を務めていることには、頭の下がる思いであるが、地区米山記念奨学委員会が魅力的であり、各委員がロータリー精神を理解していることの証左であろう。

会員委員会

忘れられない年度

地区幹事 小島 篤（東京西RC）



年度というのは普通一年間ですが、ガバナーや地区幹事の役目は準備段階が長く、古い手帳を見ると2008年の夏には「辰野ノミニーと打合せ」という予定が入っており、随分早くから準備をスタートしていたものと驚きます。

爾来、地区組織の組成、人事、地区チーム研修、PETS、地区協議会、クラブ公式訪問、そして地区大会等の様々な行事を、辰野ガバナーを始め地区チームの皆様と共に、一つ一つ実行してきたことを思い出します。

まず、辰野ガバナーは出来る限りシンプルな地区組織を目指しました。そして、ガバナー補佐、グループ幹事、地区委員会の委員長や委員をまさに適材適所と言うべき人選で決定し、ガバナーを中心に地区を運営する強固なチームが組成されました。次に谷島研修リーダーと鬼島研修リーダー補佐のご指導のもと、三大研修と言われる、「地区チーム研修セミナー」、二日間に渡る「会長エレクト研修セミナー」そして各クラブの方向性と各委員会の活動方針について示唆することを主目的に「地区協議会」が実施されました。

この三大研修で共通のテーマは、レイ・クリングスミスRI会長の標語である「地域を育み、大陸をつなぐ」であり、辰野ガバナーの信条である「クラブが中心 地区は支援」でした。また地区の強調事項は「クラブにおける長期計画の立案と推進」と「クラブ合同奉仕プロジェクトの支援」が提唱されました。そして今期は三年振りにGSE（Group・Study・Exchange）が米国の第2750地区と実施され、地区大会の開催時期に合わせ、日米双方から、6名のメンバーが派遣されました。

年度の最大イベントである地区大会は、黒田RI会長代理ご夫妻をお迎えして、一日目がホテルオークラ東京、二日目の本会議は初めての開催場所であるザ・プリンスパークタワー東京で行われました。辰野ガバナーの地区大会のテーマは「日本文化を原点に 絆を深め、輪を広げよう」ということで、記念講演や友愛の広場は「和」をテーマにした催し物が目立ちました。また、クラブ会長がそれぞれステージ上で、クラブの特徴を発表なさるというプログラムは、91というクラブ数を考えると、始めは殆んど企画スタッフが、本会議の限られた時間の中では難しいと考えていました。然し、「クラブ中心」を提唱する辰野ガバナーの強い意向で、結果的には素晴らしいクラブ紹介になりました。

そして、地区大会の余韻が覚めやらぬ3月11日あの大災害が発生しました。直後は、自然の破壊力の大きさと、人間の無力さを痛感するばかりでした。然し、呆然とばかりはしてられません。地区においても、義援募金や被災地区ガバナーからの要請に応える活動が始まり、海外からの支援協力や寄せられた義援金の活用と対応が開始され、現在に至っています。そして、今も亡くなられた方のご冥福と、震災前以上の復興を祈るばかりです。

今期も終了しますが、例年なら旧年度を担当したロータリアンはホッと一息つく時期です。然し、何故か今年は終わりという感がありません。きっと、世の中もロータリーも、大震災後のやるべき事がまだまだ山積しているからなのだと思います。最後になりましたが、この一年間、地区での経験が少ない小生が、なんとか地区幹事役が務まりましたのは、辰野ガバナーのリーダーシップはもとより、同僚幹事、地区役員や委員長の皆様、クラブ会長・幹事の皆様、そして忘れてはならないのが、地区事務局や各クラブ事務局の皆様のお力添えがあつてのことです。本当に有難うございました。

今年度は小生だけではなく全ロータリアン、いや日本を愛する全ての人々にとって忘れられない年になってしまいましたが、今年の地区大会のテーマ「日本文化を原点に 絆を深め、輪を広げよう」が期の終了に当たって改めて心に響きます。

米山功労者ご紹介

ご協力を感謝いたします

■ 米山功労者

竹内 良知君	東京日本橋西	2011.4.1	5
八幡 恵介君	東京中央	2011.4.5	20
桜庭 幸夫君	東京飛火野	2011.4.6	5
大山 忠一君	東京品川	2011.4.8	8
吉野 正樹君	東京日本橋西	2011.4.11	6
小林 喜久代君	東京たまがわ	2011.4.13	3
関谷 雄弘君	東京たまがわ	2011.4.13	6
宗万 裕君	東京日本橋西	2011.4.14	3
加藤 英雄君	東京原宿	2011.4.18	1
井出 和世君	東京中央新	2011.4.20	1
石川 和子君	東京中央新	2011.4.20	1
中島 武君	東京日本橋西	2011.4.22	4
則定 衛君	東京日本橋	2011.4.25	7
福田 四六一君	東京白金	2011.4.28	5
村口 正君	東京白金	2011.4.28	5

ポール・ハリス・フェローご紹介

◎はマルチブル

ご協力を感謝いたします

◎ 伊藤 富夫君	東京武蔵府中	2011.2.23
◎ 岸野 悠久子君	東京渋谷	2011.4.8
◎ 小川 晶子君	東京渋谷	2011.4.8
河原 俊幸君	東京芝	2011.4.15
石井 本子君	東京中央新	2011.4.15
◎ 藤田 和子君	東京中央新	2011.4.22
蒲澤 俊子君	東京中央新	2011.4.22
◎ 森川 暁君	東京原宿	2011.4.22
◎ 松原 弘士君	東京世田谷	2011.4.22
◎ 谷口 智治君	東京世田谷	2011.4.22
◎ 矢野 弾君	東京世田谷	2011.4.22
藤井 正直君	東京羽田	2011.4.29
◎ 藤木 時男君	東京品川	2011.4.29
◎ 加藤 節夫君	東京品川	2011.4.29
◎ 増田 榮一君	東京品川	2011.4.29
中村 政秋君	東京品川	2011.4.29
中山 貴樹君	東京品川	2011.4.29
◎ 富澤 為一君	東京品川	2011.4.29
◎ 土屋 光彦君	東京品川	2011.4.29
◎ 小島 知明君	東京田園調布緑	2011.4.29
◎ 齊藤 司享君	東京田園調布緑	2011.4.29

新ベネファクターご紹介

ご協力を感謝いたします

中村 孝君	東京田園調布緑	2011.4.8
鈴木 逸郎君	東京シティ日本橋	2011.4.22
田代 敦久君	東京城南	2011.4.22
保坂 紀久雄君	東京新橋	2011.4.29

文庫通信 (284号)

「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。

ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、約2万3千点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。また、一部資料はホームページでPDFもご利用いただけます。クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

ガバナー月信を中心に新着の資料から

◎「ロータリーから、あなたへ。」

〔2000年国際協議会講演より〕

リチャード・キング 2011 2p (D.2500月信)

◎「魅力的なロータリークラブ」

北 清治 〔2010〕4p (D.2530 地区協議会記録)

◎「ロータリーの源流」

田中 毅 2011 21p (D.2640月信)

◎「ベンジャミン・フランク・コリンズのスピーチ原稿について」

成川彦彦 2011 4p (D.2640月信)

◎「ロータリーの基本精神－寛容と奉仕の心」

上野 操 2011 1p (D.2580月信)

◎「出会いの不思議と面白さ」

渡辺好政 2011 2p (D.2500月信)

◎「『ノーブレス・オブリージュ(高貴なる者の義務)』について」

織田吉郎 2011 1p (D.2790月信)

◎「青少年はロータリーの継承者」

若林洋一 2011 9p (D.2710 地区大会特集号)

◎「CLP導入しました」

天神正人 2011 2p (D.2500月信)

申込先：ロータリー文庫 (コピー/ PDF)

震災に関して

◎「その時ロータリーは…」

阪神・淡路大震災第2680地区の記録

1995 107p (D.2680)

申込先：ロータリー文庫 (コピー)

◎「震度7それでもわが大地を愛す

(新潟県中越地震復興支援活動の記録)」

2005 48p (D.2560)

申込先：ロータリー文庫 (コピー/ PDF)



〒105-0011
東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3F
TEL(03)3433-6456 FAX(03)3459-7506
http://www.rotary-bunko.gr.jp
開館=午前10時～午後5時 休館=土・日・祝祭日

★国際ロータリー第2750地区出席報告（4月分）★ District 2750 Membership Attendance Report April 2011

区分	クラブ名	例会	出席率	会 員 数			区分	クラブ名	例会	出席率	会 員 数		
				10年7月1日	11年4月末	増減					10年7月1日	11年4月末	増減
千代田グループ	東 京 南	4	74.32	178	191	13	多摩南グループ	東 京 八 王 子	3	85.38	59	59	0
	東 京 芝	4	90.88	95	95	0		東 京 町 田	4	68.76	56	55	-1
	東 京 新 橋	4	78.31	51	54	3		東 京 日 野	3	84.87	36	35	-1
	東 京 赤 坂	4	78.00	48	49	1		東 京 八 王 子 西	4	79.99	71	72	1
	東 京 み な と	4	82.50	48	50	2		東 京 町 田 ・ 中	1	71.43	38	35	-3
	東 京 レ イ ン ボ ー	3	75.93	39	36	-3		東 京 八 王 子 東	1	86.36	25	22	-3
銀座・日本橋グループ	東 京 麻 布	4	69.40	22	22	0	東 京 八 王 子 南	4	82.08	53	55	2	
	東 京 銀 座	4	76.73	158	159	1	東 京 町 田 サ ル ビ ア	3	82.06	24	22	-2	
	東 京 日 本 橋	4	78.66	180	183	3	東 京 飛 火 野	4	73.27	30	28	-2	
	東 京 築 地	4	82.76	64	73	9	東 京 町 田 東	4	74.00	25	26	1	
	東 京 日 本 橋 東	4	79.51	52	50	-2	東 京 八 王 子 北	3	87.62	33	37	4	
	東 京 中 央	4	71.90	238	230	-8	東 京 立 川	3	95.00	97	96	-1	
	東 京 日 本 橋 西	4	86.33	44	45	1	東 京 小 金 井	4	95.25	30	33	3	
	東 京 銀 座 新	4	79.20	69	75	6	東 京 国 分 寺	4	94.46	43	42	1	
	東 京 シ テ ィ 日 本 橋	4	71.11	49	49	0	東 京 三 鷹	4	79.60	41	40	-1	
	東 京 中 央 新	4	72.60	38	41	3	東 京 昭 島	3	76.79	53	52	-1	
京浜グループ	東 京 羽 田	4	86.31	43	46	3	東 京 国 立	4	98.38	50	50	0	
	東 京 品 川	4	84.97	62	58	-4	東 京 立 川 こ ぶ し	4	80.36	79	81	2	
	東 京 大 森	4	89.60	49	48	-1	東 京 井 の 頭	4	80.20	24	24	0	
	東 京 品 川 中 央	5	78.76	58	57	-1	東 京 昭 島 中 央	4	80.00	42	44	2	
	東 京 大 井	4	76.32	18	19	1	東 京 武 蔵 国 分 寺	4	81.00	47	49	2	
	東 京 田 園 調 布	4	86.36	45	47	2	東 京 小 金 井 さ く ら	4	83.70	23	23	0	
	東 京 港 南	4	69.12	18	18	0	東 京 国 立 白 う め	4	85.00	17	22	5	
	東 京 大 崎	4	82.50	38	34	-4	東 京 府 中	4	84.61	61	62	1	
	東 京 蒲 田	4	92.90	62	64	2	東 京 調 布	4	86.89	61	61	0	
	東 京 京 浜	3	78.32	23	22	-1	東 京 多 摩	4	89.31	22	24	2	
	東 京 田 園 調 布 緑	4	84.92	25	26	1	東 京 狛 江	4	83.54	30	29	-1	
	東 京 マ リ ー ン	4	69.23	17	14	-3	東 京 稲 城	4	74.70	30	33	3	
	東 京 白 金	4	87.00	28	27	-1	東 京 武 蔵 府 中	4	75.07	57	56	-1	
	東 京 高 輪	2	82.50	25	26	1	東 京 た ま が わ	4	72.89	26	26	0	
山の手東グループ	東 京 西	4	74.52	151	156	5	東 京 多 摩 グ リ ー ン	4	77.00	36	36	0	
	東 京 城 西	3	72.24	77	76	-1	東 京 調 布 む ら さ き	4	86.98	82	81	-1	
	東 京 西 南	4	83.50	52	50	-2	Guam	4	60.00	66	69	3	
	東 京 原 宿	4	74.00	26	25	-1	Saipan	4	68.60	39	43	4	
	東 京 杉 並	4	71.97	40	42	2	Tumon Bay	4	38.69	88	88	0	
	東 京 神 宮	3	78.56	29	28	-1	Northern Guam	4	47.00	39	39	0	
	東 京 恵 比 寿	3	75.10	96	96	0	Pohnpei	4	40.60	21	23	2	
	東 京 広 尾	4	83.75	20	20	0	Palau	4	72.00	15	20	5	
山の手西グループ	東 京 渋谷	4	67.97	40	35	-5	Guam-Sunrise	4	52.00	30	32	2	
	東 京 六 本 木	4	76.00	50	51	1	Truk Lagoon	4	45.00	11	12	1	
	東 京 世 田 谷	4	89.43	56	57	1	国内83クラブ計			4,300	4,356	56	
	東 京 目 黒	3	94.81	44	47	3	地区91クラブ計			4,609	4,682	73	
	東 京 成 城	3	78.33	22	22	0	千代田グループ	78.48	多摩南グループ	79.62			
	東 京 世 田 谷 南	3	82.00	88	96	8							
	東 京 城 南	2	65.00	34	33	-1							
	東 京 山 の 手	4	84.36	60	64	4							
	東 京 成 城 新	3	80.33	31	39	8							
	東 京 青 山	4	75.90	29	30	1							
	東 京 自 由 が 丘	3	91.29	21	20	-1	銀座・日本橋グループ	77.64	多摩中グループ	85.81			
	東 京 世 田 谷 中 央	4	79.17	22	18	-4							
	東 京 米 山 友 愛	4	68.18	27	33	6							
	東 京 京 浜	3	82.06	30	29	-1							
山の手東グループ	東 京 武 蔵 府 中	4	75.07	57	56	-1	京浜グループ	82.06	多摩東グループ	81.22			
	東 京 高 輪	2	82.50	25	26	1					山の手東グループ	75.76	P B グ ル ー プ
山の手西グループ	東 京 多 摩	4	89.31	22	24	2	山の手西グループ	80.80	平均出席率	78.06			
	東 京 狛 江	4	83.54	30	29	-1							
山の手東グループ	東 京 稲 城	4	74.70	30	33	3	山の手西グループ	80.80	平均出席率	78.06			
	東 京 武 蔵 府 中	4	75.07	57	56	-1							
山の手西グループ	東 京 た ま が わ	4	72.89	26	26	0	山の手東グループ	75.76	多摩南グループ	79.62			
	東 京 多 摩 グ リ ー ン	4	77.00	36	36	0							
山の手東グループ	東 京 調 布 む ら さ き	4	86.98	82	81	-1	山の手西グループ	80.80	平均出席率	78.06			
	Guam	4	60.00	66	69	3							
山の手西グループ	Saipan	4	68.60	39	43	4	山の手東グループ	75.76	多摩中グループ	85.81			
	Tumon Bay	4	38.69	88	88	0							
山の手東グループ	Northern Guam	4	47.00	39	39	0	山の手西グループ	80.80	平均出席率	78.06			
	Pohnpei	4	40.60	21	23	2							
山の手西グループ	Palau	4	72.00	15	20	5	山の手東グループ	75.76	多摩東グループ	81.22			
	Guam-Sunrise	4	52.00	30	32	2							
山の手東グループ	Truk Lagoon	4	45.00	11	12	1	山の手西グループ	80.80	平均出席率	78.06			
	国内83クラブ計			4,300	4,356	56							
山の手西グループ	地区91クラブ計			4,609	4,682	73	山の手東グループ	75.76	多摩南グループ	79.62			
	千代田グループ	78.48	多摩中グループ	85.81									
山の手東グループ	銀座・日本橋グループ	77.64	多摩東グループ	81.22									
	京浜グループ	82.06	P B グ ル ー プ	52.99									
山の手西グループ	山の手東グループ	75.76	平均出席率	78.06									
	山の手西グループ	80.80	平均出席率	78.06									

編集後記

辰野ガバナーのご方針に従い、クラブ中心で読みやすい編集を続けてまいりました。「我がクラブ紹介」「PBG会員への英文翻訳」「Web版毎週更新」、また、「PC上で本のページをめくるように読む」などの読みやすさの工夫も、その方針に沿って改編した部分です。

その分、ガバナー補佐、各委員長やクラブ会長の皆様に、原稿執筆で多大なご負担をおかけしたことについてお詫び

申し上げますとともに、ご協力には心より感謝申し上げます。

ガバナー月信の印刷版とWeb版は、親しみ安く読んでいただけるように、毎年進歩を続けております。次年度の望月委員長もいろいろ創意工夫されていますので、引き続きご愛顧、ご協力のほどお願い申し上げます。

1年間、有難うございました。

2010-11年度ガバナー月信・IT委員会 委員長 堀口 昇治 (東京西RC)

国際ロータリー第2750地区 2010-11年 ガバナー 辰野 克彦

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3F 電話 03-3436-2750 FAX 03-5472-2750

Rotary International District 2750 2010-11 Governor Katsuhiko Tatsuno

KOKURYU SHIBA-KOEN BLDG. 3F, 2-6-15 SHIBA-KOEN, MINATO-KU, TOKYO, JAPAN 105-0011 PHONE 03-3436-2750 FAX 03-5472-2750

発行：ガバナー 辰野 克彦(2010-11) © Katsuhiko Tatsuno 2011

編集・制作：ガバナー月信・IT委員会 委員長 堀口 昇治 副委員長 山見 真弘 副委員長 木村 清信

副委員長(年次報告書担当) 竹平 時彦 Andrew WONG 島村 博之 望月 耕次 松田 美房 石黒 重徳 森本 行俊 清野 修一

浅見 省三 河村 勝久 坂場 一隆 Brian McDERMOTT

ホームページアドレス

<http://www.ri2750.org/>